

入学試験問題



地理歴史

(配点 120 点)

平成 24 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 39 ページあります(本文は日本史 4 問 4～13 ページ、世界史 3 問 14～21 ページ、地理 3 問 22～39 ページ)。
落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史、世界史、地理のうちから、あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には、必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は、1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に、受験番号(表面 2 箇所、裏面 1 箇所)、科類、氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙表面上方の指定された()内に、その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち、その用紙で解答する科目の分を 1 箇所だけ正しく切り取りなさい。
- 10 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 11 この問題冊子の余白は、草稿用に使用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

地 理

第 1 問

ユーラシアとアメリカ合衆国の自然・産業・文化に関する以下の設問 A～B に答えなさい。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

次ページの図 1 は、北緯 50° を中心にユーラシア大陸の一部を示したものである。同じ北緯 50° 付近であっても、自然環境は場所によって大きく異なる。

- (1) 図 2 は、図 1 中の a, b, c の各地点の気温の年変化を表したグラフである。ア～ウに該当する地点の記号を、ア—○のように答えなさい。また、冬期の気温が地点ごとに異なる理由を、2 行以内で説明しなさい。
- (2) 図 3 は、図 1 中の W, X, Y, Z の各国で飼育されている牛、羊・山羊、馬の頭数を示している。カ～ケに対応する国の記号を、それぞれ、カ—○のように答えなさい。
- (3) 図 1 の湖 S と湖 T について、周辺の流域環境との関わりにふれながら、湖水深と水質の特徴、ならびにそれらの最近の変化に関して、下記の語句を全部用いて 2 行以内で説明しなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所を下線を引くこと。
気候 人為
- (4) 図 1 の W, Z の各国で最も多い人々に信仰されている宗教を、それぞれ W—○○教のように答えなさい。

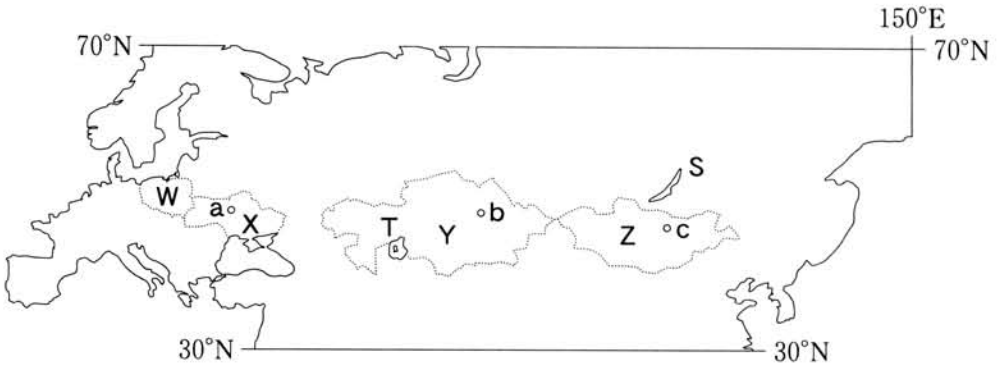


図1

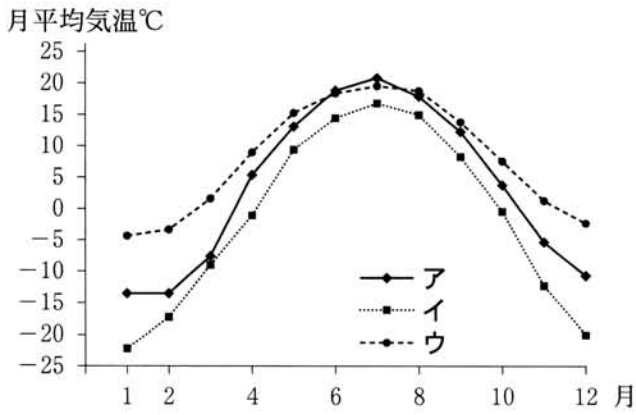
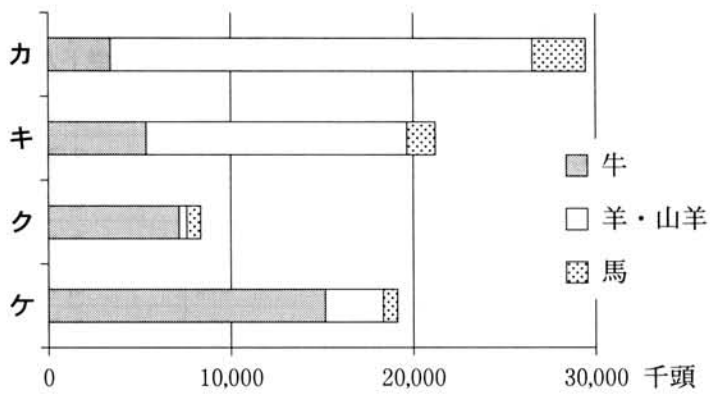


図2



FAO 資料による。

図3

設問B

次の表は、アメリカ合衆国における地域別および州別の経済指標の変化をみたものである。

- (1) 表1は、アメリカ合衆国の10の州を取り上げ、それぞれの州の人口、小麦生産量、とうもろこし生産量、工業製品出荷額、失業率を比べたものである。表1のa～eの州の位置に該当する番号を、図4の番号①～⑤から選び、それぞれa—○のように答えなさい。
- (2) 表1にあげた諸州における失業率をもとに、2005年以降の雇用変化の地域的特徴とその要因について、2行以内で述べなさい。
- (3) 表2は、地域別にみたアメリカ合衆国の製造業被雇用者数および地域別構成比の変化を示したものである。1967年から1987年までの時期(第1期)と1987年から2008年までの時期(第2期)でみられた変化には、どのような違いがあるか、その要因にふれながら、3行以内で述べなさい。

表1

| 州名 | 人口 2009年 (千人) | 小麦生産量 2009年 (百万ブッシェル) | とうもろこし 生産量 2009年 (百万ブッシェル) | 工業製品出荷 額 2008年 (億ドル) | 失業率 | |
|---------|---------------------|-----------------------------|----------------------------------|----------------------------|--------------|--------------|
| | | | | | 2005年 (%) | 2009年 (%) |
| (a) | 24,782 | 61 | 255 | 6,439 | 5.4 | 7.6 |
| (b) | 12,910 | 46 | 2,053 | 2,703 | 5.8 | 10.1 |
| ペンシルバニア | 12,605 | 10 | 132 | 2,493 | 5.0 | 8.1 |
| (c) | 9,970 | 39 | 309 | 2,107 | 6.8 | 13.6 |
| オハイオ | 11,543 | 71 | 546 | 2,982 | 5.9 | 10.2 |
| インディアナ | 6,423 | 30 | 934 | 2,208 | 5.4 | 10.1 |
| ケンタッキー | 4,314 | 22 | 190 | 1,141 | 6.0 | 10.5 |
| テネシー | 6,296 | 17 | 87 | 1,386 | 5.6 | 10.5 |
| (d) | 2,819 | 370 | 598 | 843 | 5.1 | 6.7 |
| (e) | 647 | 377 | 200 | 140 | 3.4 | 4.3 |

アメリカ合衆国商務省資料による。

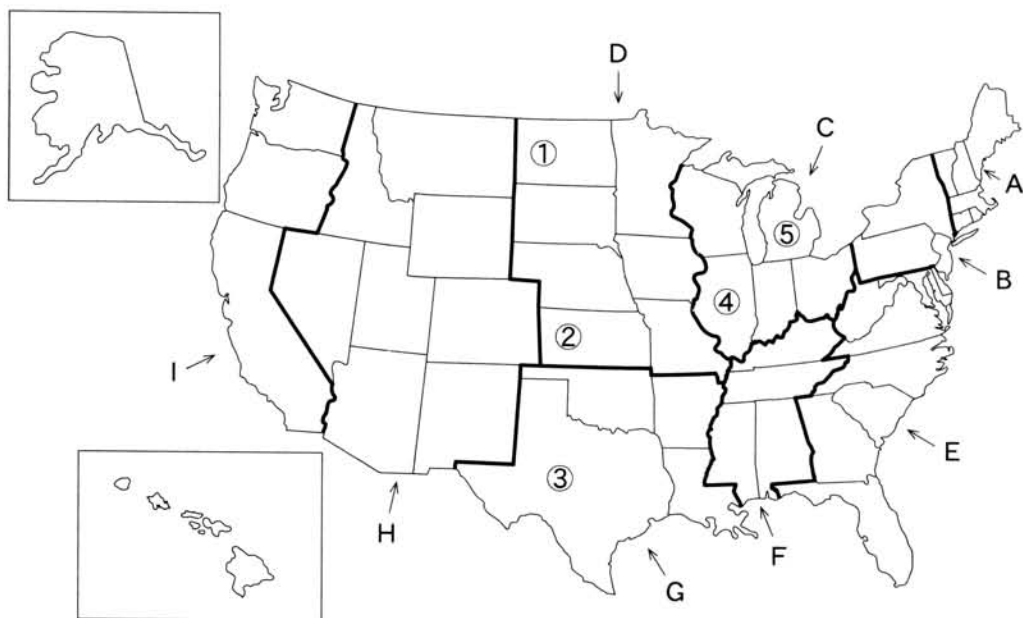


図4

A～Iは、表2の地域名記号の領域を示す。

表2

| 地域名 記号 | 地域名 | 1967年 | | 1987年 | | 2008年 | |
|-----------|-----------|----------------------|-------------------|----------------------|-------------------|----------------------|-------------------|
| | | 製造業 被雇用者数 (千人) | 地域別 構成比 (%) | 製造業 被雇用者数 (千人) | 地域別 構成比 (%) | 製造業 被雇用者数 (千人) | 地域別 構成比 (%) |
| A | ニューイングランド | 1,562 | 8 | 1,350 | 7 | 670 | 5 |
| B | 中部大西洋岸 | 4,360 | 23 | 3,007 | 16 | 1,426 | 11 |
| C | 東北中部 | 5,151 | 27 | 4,186 | 22 | 2,886 | 23 |
| D | 西北中部 | 1,206 | 6 | 1,322 | 7 | 1,173 | 9 |
| E | 南部大西洋岸 | 2,502 | 13 | 3,104 | 16 | 1,884 | 15 |
| F | 東南中部 | 1,092 | 6 | 1,303 | 7 | 1,004 | 8 |
| G | 西南中部 | 1,083 | 6 | 1,432 | 8 | 1,315 | 10 |
| H | 山岳部 | 315 | 2 | 596 | 3 | 589 | 5 |
| I | 太平洋岸 | 2,050 | 11 | 2,650 | 14 | 1,834 | 14 |
| アメリカ合衆国 | | 19,323 | 100 | 18,950 | 100 | 12,781 | 100 |

注 A～Iの数値の合計は、アメリカ合衆国の数値と一致しないことがある。
アメリカ合衆国商務省資料による。

第 2 問

世界の農林業に関する以下の設問 A～C に答えなさい。解答は、解答用紙の(ロ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

表 1 は、各種の農作物の輸出額の上位 6 位までの国について、2008 年の輸出額とその順位、および 1998 年と 1988 年の順位を示している。なお、この輸出額にはそれぞれの農作物の加工品は含まれていない。

- (1) A～D は、米、とうもろこし、コーヒー、茶のいずれかである。A～D の品目名を、A—○のように答えなさい。
- (2) (ア)～(エ)の国名を、(ア)—○のように答えなさい。
- (3) (イ)国は、1988 年から 2008 年の間に、A と B での輸出額順位を大きく上昇させている。その共通の理由として考えられることを、この国の社会状況を踏まえて、2 行以内で述べなさい。
- (4) 消費者の間では、A や C の農作物の中で、一定の条件を満たすものを、他に比べて割高であっても購入しようとする動きが見られるようになってきている。そのような動きが見られるようになった理由を、以下の語句を全部使用して、2 行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

国際相場 持続 農民

表1

| 品目 | 2008年 順位 | 国 | 2008年輸出額 (百万ドル) | 1998年 順位 | 1988年 順位 |
|----|-------------|--------------------|--------------------|-------------|-------------|
| A | 1 | (ア) | 4,132 | 1 | 1 |
| | 2 | (イ) | 2,114 | 4 | 29 |
| | 3 | コロンビア | 1,905 | 2 | 2 |
| | 4 | インドネシア | 989 | 6 | 3 |
| | 5 | ドイツ | 917 | 10 | 12 |
| | 6 | ベルギー ¹⁾ | 769 | 18 | 46 |
| | | | 世界計 | 16,627 | |
| B | 1 | (ウ) | 6,109 | 1 | 1 |
| | 2 | (イ) | 2,896 | 4 | 15 |
| | 3 | インド | 2,582 | 2 | 5 |
| | 4 | アメリカ合衆国 | 2,214 | 3 | 2 |
| | 5 | パキスタン | 1,682 | 6 | 3 |
| | 6 | イタリア | 820 | 7 | 4 |
| | | | 世界計 | 19,955 | |
| C | 1 | (エ) | 1,259 | 1 | 3 |
| | 2 | ケニア | 935 | 2 | 4 |
| | 3 | 中国 ²⁾ | 701 | 4 | 1 |
| | 4 | インド | 590 | 3 | 2 |
| | 5 | イギリス | 325 | 5 | 5 |
| | 6 | ドイツ | 207 | 7 | 9 |
| | | | 世界計 | 5,521 | |
| D | 1 | アメリカ合衆国 | 13,885 | 1 | 1 |
| | 2 | アルゼンチン | 3,531 | 3 | 4 |
| | 3 | フランス | 2,298 | 2 | 2 |
| | 4 | (ア) | 1,405 | 28 | 46 |
| | 5 | ハンガリー | 986 | 5 | 10 |
| | 6 | インド | 781 | 62 | 68 |
| | | | 世界計 | 26,933 | |

注 1)1998年,1988年はルクセンブルクを含む。

2)台湾・ホンコンを含まない。

FAO資料による。

設問B

中国の2008年の農産物(加工品も含む)の輸入額は801億米ドル、輸出額は359億米ドルである(FAO資料による。なお、中国には台湾を含む。ホンコン、マカオは含まない)。

- (1) 中国の輸入額上位の農産物には、大豆などのほか、パーム油(ヤシ油)、大豆油が含まれる。これら油脂類が大量に輸入されている背景を、2行以内で述べなさい。
- (2) 中国では、農産物の輸入額が輸出額を大きく上回っているが、輸出額の規模も決して小さくない。輸出額上位には、農産物のさまざまな加工食品、調理済み食品、冷凍食品などが含まれる。これらの品目が主要な輸出品目となっている背景を、2行以内で述べなさい。

設問C

地球上の森林(地上部)には約289ギガ(10^9)トンの炭素が蓄積されていると推定されるが、1990年から2010年にその3.5%が失われている。

図1は、世界をアフリカ、アジア、ヨーロッパ(含むロシア)、南米、北中米、オセアニアの6つの地域に分けて炭素蓄積量の推移を示したものである。図中のA地域で炭素蓄積量が最も多いのは、「地球の肺」とも言われている広大な熱帯林を有しているからである。B地域では、人口の増加率が最も高い。C地域とD地域は、いずれも炭素蓄積量を増加させているが、化石燃料消費量も多い。なお、国民一人あたりの二酸化炭素排出量が最も多い国は、D地域に含まれている。

- (1) A地域やB地域で起こっている炭素蓄積量減少の主な要因を2つ、あわせて2行以内で述べなさい。
- (2) C地域とD地域では炭素蓄積量が増加している。これにはどのような要因が考えられるか、1行で説明しなさい。

炭素蓄積量(ギガトン)

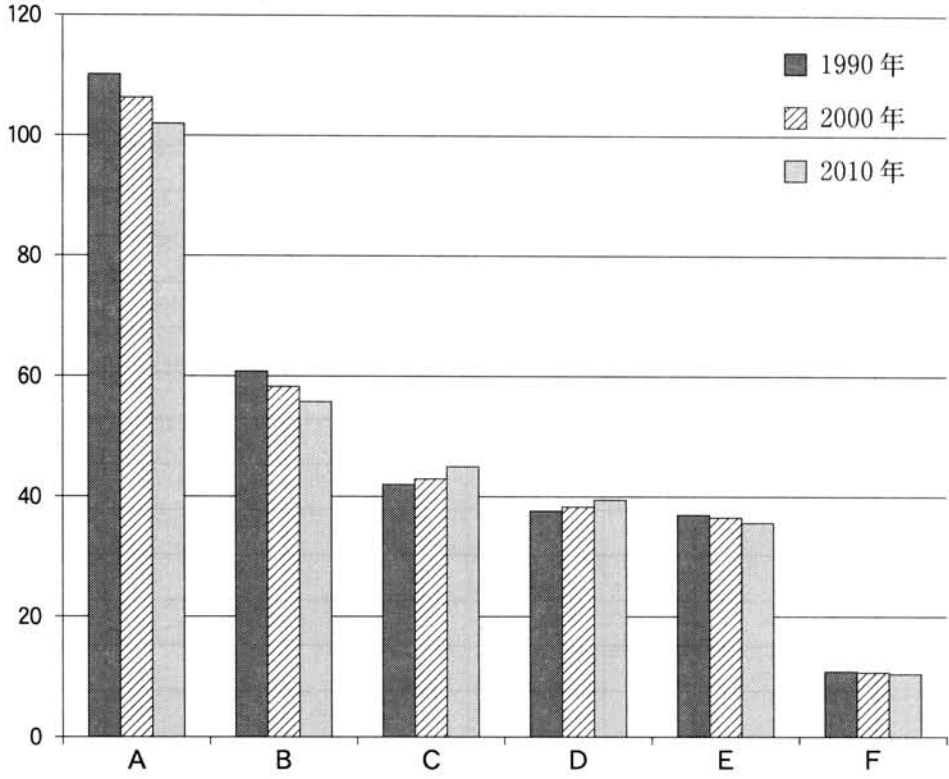


図1

FAO 資料による。

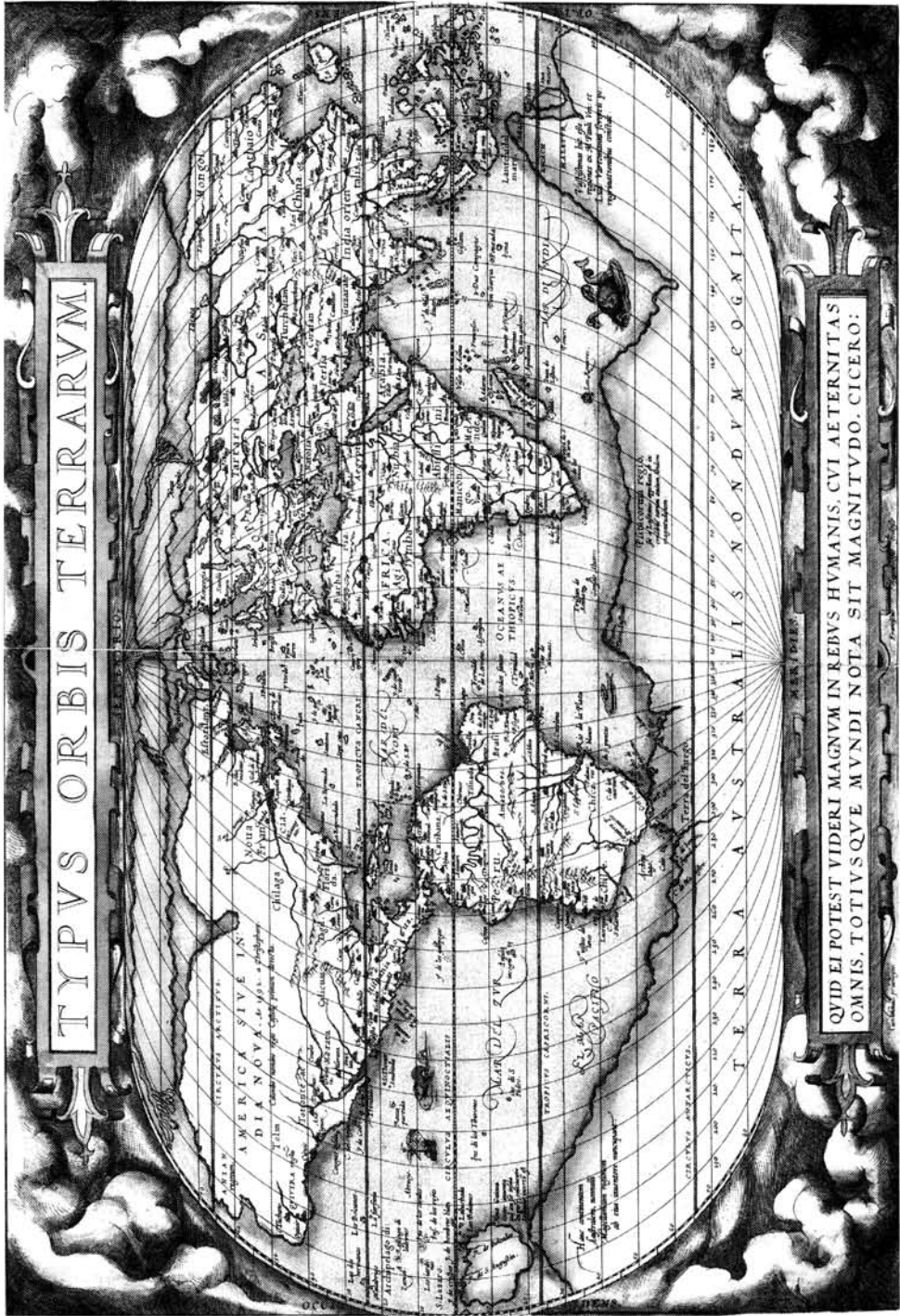
第 3 問

地図に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(ハ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問A

図1は、フランドル(現ベルギー)の地理学者オルテリウスが、1570年に作成した世界地図である。

- (1) a～cの位置に描かれている特定の緯度を示す線(緯線)の名称を、a—○のように答えなさい。
- (2) bとcの緯線が、それぞれどのような自然現象の境になっているのかを、あわせて2行以内で述べなさい。
- (3) 地図に示されている陸地の分布や形は、現実にかかなり近い場合と、そうでない場合がある。この原因の一つは、地図の作成時には、ある場所の地球上での位置を知ることが、今よりも難しかったためである。当時、位置の決定に使われたおもな方法と、それに起因する地図の正確さ、不正確さの内容を、以下の語句を全部用いて3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いても良いが、使用した箇所に下線を引くこと。
緯度 経度 時間 天文
- (4) 地図の不正確さの内容には、位置の決定に用いた方法とは異なる原因によるものも認められる。このような不正確さがみられる代表的な地域の例と、その原因を、あわせて2行以内で述べなさい。



c
b
a

图 1

設問B

図2は、現在の東京都心およびその周辺部の標高を図示したものである。

- (1) 図2のA地区では、もとの地形が人為の影響によって変化していることが読み取れる。このような変化を2種類指摘し、それぞれの原因とあわせて3行以内で述べなさい。
- (2) 図2の西部の台地では、開析が進み、入り組んだ形で谷地が分布していることが読み取れる。これらの谷地に存在した河川の多くは、1960年代頃に暗渠化(フタをかけ、地中化すること)されている。河川の暗渠化が進んだ主な理由を、以下の語句を全部用いて2行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

拡幅 生活環境 都市化

- (3) 図中の沿岸部には、多くの人工島がある。日本の大都市沿岸部に形成されたこうした人工島に、立地適性があると考えられる公共施設の例を1つあげ、その理由とあわせて2行以内で述べなさい。

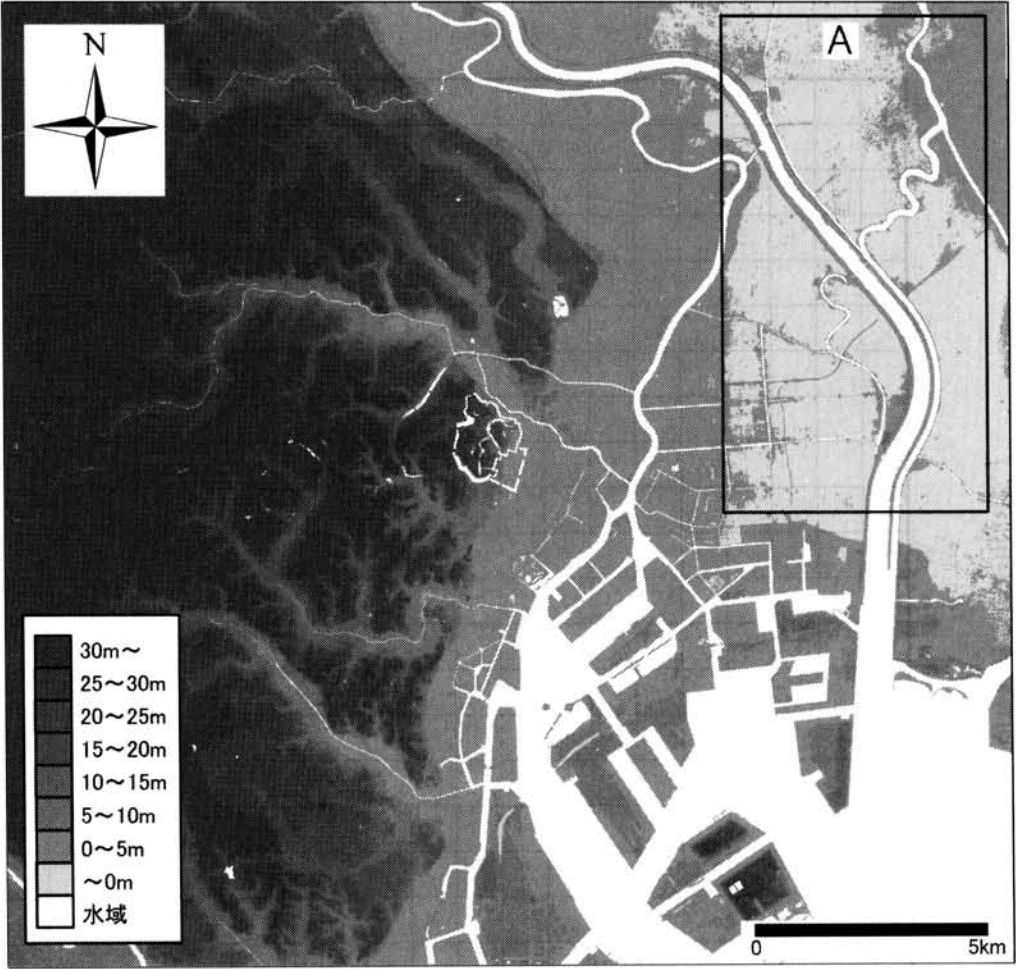


図 2

国土地理院『数値地図 5 m メッシュ(標高)』による。